石棺（せきかん）の 眠りに就く日 吉野ヶ里

古語（いにしえかた）る 石蓋（いしぶた）の傷（きず）

令和六年五月四日

大中臣正比呂

長さ180㎝、幅35㎝程度の石棺墓は考古学の調査を終了して、新しい探査方法が開発されるまで埋め戻される。筆者は二度と目に出来ることはないと思い、現地を再訪した。現在の科学技術で遺跡を全部暴くことは破壊につながるからだと言う。知の抑制もまた尤もな話だ。

神社の下に葬られていた人物は小さい。有明海の向こうの多良から運ばれた三片の石蓋には朱丹が塗られ、多数の交線が刻まれていて、埋葬品もなく持ち去られた人物の謎を語る。